

小美玉にみの～れがあるのは自慢です！！

横山さんに茶道との出会いを聞いてみると、「高校生の時に出会い半世紀になりました。実家が日立市で、高校は元々男子校で女子が50名くらいしかいなかったのが男っぽくなったら困ると母の勧めで始めました。大学も地元だったので続けられたのだと思います。何でもそうですが茶道もやればやるほど奥が深いですね。私は良い条件が重なって日立からお嫁に来てからも、子どもをおんぶしたり手をひいたりしながら日立までお茶を習いに行きました。そこまで魅力があるんでしょうね。良い先生と仲間に出逢えて、もちろん家族の理解があったからこそ続けることができました。平成元年から教え始め、毎週水曜日に自宅で教室を開いています。また、自分でも師についています。難しいことができる仲間がいて、自分の復習のようなもので時代に合わせて新しい情報を取り入れたりしています。茶道は正座していて大変だと作法があるから大変だとか・それを面倒に感じるか、おもしろいなんて感じるかですね。スポーツにルールがあるのと同じだと思います」と笑顔で話してくれました。

今年の4月から小美玉市文化協会美野里支部長になった横山さんですが、「コロナ禍の中、文化協会祭や文化祭が中止になりました。そこで、みののれのとときめき美の小径の展示スペースを利用して、文化協会美野里支部の作品展示と加入団体紹介展を開催することになりました。茶道、華道、コーラス、書道、絵画、水墨画、俳句の合計8団体です。皆さんは色々な思いを伝えたくて作品を作っていると思うので、たくさんの人に観ていただきたいと思っています。コーラスは皆さんの前で歌うことはできないのですが、『いつか歌えるように練習をしています』ということをお伝えたいと思います。色々な工夫をして徐々になんとした対策をとって舞台発表ができたらいいなと思います。コロナ禍で今までとは違ってしまっただけで、支部長になって何もやらなくて良かったと言っているのではなく、どうしたら何ができるだろうという気持ちになってきました」と話してくれました。

ハビリ体操の指導士もやって、エアロビクスもやっているんですよ。かな書道の先生から「二十色」と教えてもらってからは、10年あつたら何か一つものになるんだなと思っただけのことがもう一つくらいできるんじゃないかと思っています」と楽しそうに話してくれました。茶道のお話をするからと優しい色の涼しげな和服姿の横山さんは、「洋服を着るのも着物を着るのも同じ、15分で着物を着てきました。コロナですべて家に居た時は和裁をやっていました」と話してくれたのが印象的でした。

「10月24日（土）から11月23日（月・祝）まで、みののれとときめき美の小径で作品展示と加入団体紹介展を開催します。文化協会に入っているというアピールの意味も込めているのと、文化協会のメンバーも高齢化が進んでいます。が、まだまだ元気な方がいますよという姿を皆さんに伝えたいと思っています」と横山さんは素敵な笑顔で話してくれました。

ぜひ遊びにきてください。
(藤田佐知子)



小美玉市文化協会美野里支部長

よこやま ゆきえ
横山 由紀恵さん

「茶道を身近なものに感じてもらえたらうれしいです」と話す横山さん

みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.158